

永福寺

所在 斗六街斗六二〇五

教別 佛教
祭神 觀音佛祖、善才、良女、月老公、註生娘々、祖母、土地公、伽藍爺、韋馱天尊、十八羅漢

創立 乾隆末年

信徒 二千八百人

例祭 舊曆二月十九日、六月十九日、九月九日

管理人 海豐崙 鄭芳春

財產 建物敷地〇甲五五八〇、田〇甲一〇一五

沿革 乾隆末年創立と云ふのみ縁起其他當時の狀況不明なり其後道光廿八年時の斗六門分縣悉姚鴻の盡力に依り改築せし事あるも其他の修繕等詳かならず然るに明治三十九年の震災に大破せるを以て吳貫世、吳盛金等發起となり同地方有志より金一千九百三十圓を募集し明治四十五年大修繕を加へたり

代天宮

所在 斗六街斗六

教別 儒教

祭神 池王爺

創立 乾隆末年か嘉慶の初年

例祭 舊曆二月、六月、九月各十九日

信徒 二千八百人

管理人 海豐崙 鄭芳春

沿革 本廟の創設以前斗六街屢々火災起り住民之に苦しめり依つて池王爺を迎え廟を起して之を祀りたるが其後災厄漸く熄めり大正二年吳貫世、吳盛金等斡旋して大修繕を加へたりと

新興宮

所在 斗六街斗六

教別 儒教
祭神 媽祖、千里眼、順風耳、神農聖帝、

達磨祖師、福德正神

創立 嘉慶年間

信徒 約二千人

例祭 舊曆三月廿三日

管理人 斗六 鄭芳春

財產 建物敷地〇甲一六三五、田一甲〇五五〇

沿革 嘉慶年間現在の廟宇附近にて小兒が一佛像の川に流れ来るを拾ひ假に一小祠を建て新興宮と命じて遊戯し居たるが其後或る支那人が臺灣の新興宮は靈顯著しと聞き石柱一對を寄進せんとて持ち來りたるも其所在判明せずして西螺の媽祖宮に寄進して歸れりと附近の住民之を聞き信仰俄かに高まり假小祠を毀ちて廟宇を新築したるが其後久しく修繕を加へざりし爲め廟宇漸く荒廢に傾きたれば明治四十四年吳貫世、吳盛金等發起して所在信徒より寄附金七百八十餘圓を募り大正六年大修繕を加へたるものなりと

眞一殿

所在 斗六街斗六

教別 齋教 (龍華派)

祭神 釋迦如來、觀音、祖師、韋馱天尊、善才、良女、地藏王、望陳、王爺、媽祖、關帝君、灶君、五谷王

創立 約七八十年前

信徒 七十三人

例祭 舊曆一月八日、四月八日、八月十五日、十月十五日

管理人 斗六 詹氏霜

財產 建物敷地〇甲〇九八五、田一甲八六一五

沿革 今より凡七八十年前支那の僧侶習階師來りて當地の佛教信者に説教を始めたるに次第に信徒の數を増し遂に淨財を集めて現在の土地を購ひ一小寺を建立せり其後明治二十八年盧色の發起にて信徒より淨財五百圓を集めて修繕を加へた

るが明治三十九年の地震に大破したれば
同人の發起にて再び淨財一千圓を集め直
ちに改築せり然るに大正二年に至り信者
詹氏霜自費五百圓を投じて拜殿及護室を
増築して今日に及びたりと

南 壇

所在 斗六街斗六

教 別 儒教
祭 神 無縁の死者の靈
創 立 不詳
信 徒 二千五百人
例 祭 舊曆七月一日
管理人 海豊崙 鄭芳春

沿革 何時の頃創立されたるものなる
か不明なるも本廟所在地附近は毎年出水
毎に崩潰するに單り廟敷地のみは安全な
るより之れ全く神靈の加護ならんと之を
信ずる者漸次多きを加へたるに明治三十
五年頃林沙清なる者足痛を患ひ久しく癒
へず本廟に祈願したるに間もなく平癒し
たれば増々信仰厚くなり明治三十六年頃
林沙清謝恩的に自費を投じて修繕を行ひ
明治四十五年張九の發起にて寄附百圓を
募つて大修繕を加へたりと

受 天 宮

所在 斗六街斗六

教 別 儒教
祭 神 媽祖
創 立 乾隆末年
信 徒 一萬人
例 祭 舊曆三月廿三日
管理人 海豊崙 鄭春芳
財 産 建物敷地○甲四三八五

沿革 乾隆末年の創立なりと云ふも詳
かならず其後道光二十八年斗六門分縣不
姚鴻の盡力に依り修繕を加えたるも其後
漸次破損の度を加へ來りたれば明治四十
二年吳貫世、吳盛金の發起にて工費二千

圓を地方民より募集し明治四十五年之を
改築したりと

福 德 祠

所在 斗六街斗六

教 別 儒教
祭 神 福德正神、城隍、安祿尊神、龍王尊神
創 立 康熙末年
信 徒 千二百人
例 祭 舊曆八月十五日
管理人 海豊崙 鄭芳春
財 産 建物敷地○甲○一九五

沿革 本廟の創立は康熙の末年なりと
云ふも詳細を知る者なし其後明治四十五
年吳貫世、吳盛金發起して一般住民より
寄附二百圓を募集し修繕せるものにて創
立以來此の修繕までの事跡は不明なり

大 乾 宮

所在 斗六街海豊崙

教 別 儒教
祭 神 玄天上帝、太子爺、白姓爺、王爺、
媽祖、觀音、元帥爺、關帝君、土地
公、土地婆
創 立 約六十年前
信 徒 三百人
例 祭 舊曆三月三日
管理人 海豊崙 廖沛
同 張火生

沿革 往時洪水の時神像一個流れ來り
たるを此の地の住民之を拾ひて自宅に奉
祀したるが今より六十年前庄民協議の上
廟宇を建て奉祀せり其後廟宇漸次荒廢し
たれば當地の朱母灣、廖沛、張火生等發
起して寄附金二百餘圓を募り明治四十二
年之を改築せりと

引善堂觀音佛祖

所在 斗六街海豊崙

教 別 齋教 (龍華派)

祭神 觀音佛祖、善才、瓦女、韋駄天尊、
仙王爺、關帝君、關平、周倉

創立 不詳
信徒 百五十人
例祭 舊曆二月十九日、五月十三日、十一月十七日

管理人 海豐崙 林天文

財產 田、○甲三八四〇 畑、○甲六九四〇

沿革 創立當時の事情不明、明治三十七年廟宇荒廢せしを以て當地林天文自費百七十圓を投じて草堂を建立せるが大正二年の暴風雨に倒壊したれば大正三年改築費二千圓の寄附募集の許可を受けて大正六年改築竣工せりと

土地公廟

所在 斗六街海豐崙

祭神 土地公、土地婆、媽祖、王爺、祖師
公、將爺

創立 不詳
信徒 七十人
例祭 舊曆一月一日、八日、十五日、二月廿三日、八月十五日、九月九日、十一月三日

管理人 海豐崙 林對

沿革 本廟の創立詳かならず始めは至つて小さき廟宇なりしも大正元年林對、林松等信徒總代として改築を提議し部落の信徒より三百四十圓の寄附を募り同年現在の如く改築せりと

王安宮

所在 斗六街大潭

祭神 帝爺、元帥、太子、三山國王、文武
狀元、王姓爺、土地公、五谷王、祖師公、土地婆

創立 百數十年前
信徒 百五十人
例祭 舊曆三月三日、十二月中

管理人 大潭 郭天來

財產 祠廟敷地○甲二〇二〇、建物敷地一
甲一八五五、原野○甲七二一〇

沿革 今より百數十年前某が本廟祭神を廣東より携へ來り自宅に奉祀せしが附近の住民も漸次信仰し庄民相謀つて廟宇を建立し之れに遷祀せり其後今より約六十年前楊直芳なる者の盡力に依り信徒の寄附金七八百圓を集めて之を改築したるが明治四十年に至り廟宇又た荒廢せしかば楊大元發起となりて五六十圓の寄附金を集めて之を修繕せりと

朝龍廟

所在 斗六街九老爺

祭神 玄天上帝、元帥爺、土地公、土地婆

創立 明治三十七年
信徒 二百人
例祭 舊曆三月三日、十月不定日

管理人 九老爺 莊德意

沿革 本廟の祭神は某庄民が梅仔坑より奉迎し來り自宅に奉祀せるが漸次庄民の信仰を得明治三十七年同庄曾主歲、莊得意等相謀りて附近の信徒より八百圓の寄附を募り明治三十八年起工同年竣工せる者なりと

武帝廟

所在 斗六街九老爺

祭神 關帝君、關平、周倉、觀音佛祖

創立 明治四十年
信徒 百五十人
例祭 舊曆五月十三日

管理人 九老爺 劉傳

沿革 明治三十六年同庄の陳蔭、陳曉の二兄弟が臺中州より族神を迎へ自宅に奉祀せしが阿片吸喰者其符を戴いて吸喰

の習癖止みたれば漸次信仰者を増加し遂に庄民と謀り明治四十年一廟宇を建立奉祀せり其工費百圓は庄民の醸金に依れりと然るに明治四十三、四年の大暴風雨に倒潰したれば同庄劉傳なる者信徒に謀り百餘圓の寄附金を得て明治四十五年改築落成せりと

三 殿 宮

所在 斗六街九老爺

教 別 儒 教
祭 神 紫衣爺、四將軍、觀音佛祖
創 立 約百年前
信 徒 五千人
例 祭 舊曆二月八日、四月八日、八月八日、十一月不定日

管理人 九老爺 劉溫故

沿革 今より約百年前庄民某支那より渡臺の際一幅の畫像を携へ來りて自宅に祀りしに屢々靈顯あり庄民有志と謀り一字を建立して之に祀れり然るに其後六七十十年前廟宇漸次荒廢せしかば同庄の劉萬儀之を修覆し更に明治三十六七年の暴風雨に倒壊したれば同庄の劉春長庄民と協議の上寄附金七八百圓を集め明治三十八年之を改築せりと

曾 姓 大 祖 師

所在 斗六街九老爺

教 別 儒 教
祭 神 始祖宗姓勇公
創 立 百餘年前
信 徒 百餘人
例 祭 舊曆二月一日、十一月十七日
管理人 九老爺 曾 云

沿革 今より百餘年前曾姓の祖先が支那より渡臺の際始祖の位牌を携へ來り同姓の者より千圓内外を醸集して溝仔埧瓦厝仔に一廟宇を建立奉祀したるが明治三

十六年倒壊したるを以て九老爺の曾云なる者之れが再興を發起し同地の同姓より約二千圓を募集して同年改築落成せりと

北 天 宮

所在 斗六街大崙

教 別 儒 教
祭 神 媽祖、大監、福德正神、元帥、五谷王、帝爺
創 立 同治八年
信 徒 二百人
例 祭 舊曆三月三日、十一月吉日
管理人及爐主 大崙 許大坤
財 產 祠廟敷地○甲一四一〇、畑○甲二二七〇

沿革 同治八年庄民の寄附金四百圓を以て創立せるものにして其後大正二年廟宇破損せしかば楊歐なる者發起人となり寄附金百圓を募集し修理したりと

上 帝 爺 廟

所在 斗六街大崙

教 別 儒 教
祭 神 玄天上帝、大道公、大使公、國聖爺
創 立 土地公、武秋元
信 徒 百數十年前
例 祭 舊曆三月三日、十一吉日
管理人 大崙二九三 陳江海
財 產 祠廟敷地○甲一〇五〇

沿革 本廟の創立縁起を知る者なし修築改築又同じ

大 年 宮

所在 斗六街大崙

教 別 儒 教
祭 神 玄天上帝、國姓爺、太子爺、元帥、五谷王、土地公、土地婆
創 立 約百三十四十年前
信 徒 二百餘人
例 祭 舊曆三月三日、十一月吉日

管理人 大端 游 架
財 産 建物敷地○甲二六〇五

沿革 〓 今より百三十四年前庄内の平安を祈る爲め庄民相謀り寄附金三十圓を醸出して創立したる廟宇なるが其後漸次荒廢したれば咸豐三年庄民協議の上六百餘圓を醸出して改築せり然るに明治三十九年の地震及風雨の爲め甚しく破損したれば當時の保正劉加田の斡旋にて金千百餘圓を集め現在の如く改築せりと

德 興 宮

所在 斗六街溝子埧

教 別 儒 教
祭 神 玄天上帝、元帥、土地公、土地婆、文武狀元、灶君公
創 立 弘化四年
信 徒 五、六十人
例 祭 舊曆三月三日、十一月吉日
管理人 溝子埧 陳 雲
財 産 建物敷地○甲三三七五

沿革 〓 本廟は弘化四年庄民相謀りて庄内の平穩を祈る爲め寄附金百圓を集めて建立せる者にして其後廟宇漸次頽廢したれば陳雲なる者の發起にて信徒より金六十圓を募りて修繕を加へたりと

金 熙 宮

所在 斗六街溝子埧

教 別 儒 教
祭 神 玄天上帝、大道公、主公元帥
創 立 百五十年前
信 徒 二百人
例 祭 舊曆三月三日、十一月吉日
管理人 溝子埧 朱 恭
財 産 祠廟敷地○甲〇五五〇

沿革 〓 本廟の創立に就いては今より百五十年前なりと云ふものあるの外知る者なし其後明治三十九年の地震に大破せるを以て廖王發起人となり寄附金二十餘

圓を募り之を修繕せりと

順 天 宮

所在 斗六街林子頭

教 別 儒 教
祭 神 保生大帝、太子爺
創 立 嘉慶二十二年
信 徒 百五十人
例 祭 舊曆一月九日、三月三日
管理人 林子頭 黃樹枝

沿革 〓 本廟は嘉慶二十二年の創立なりと稱するも詳細不明なり、然るに同治二年同地の黃田なる者盡力して金三百餘圓及勞力の寄進を求め現在の廟宇に改築せり以前は小規模の廟宇なりしと

福 天 宮

所在 斗六街林內

教 別 儒 教
祭 神 大尉侯公、神農、鄭國姓、天上聖母、觀音佛祖
創 立 明治十一年
信 徒 一千五十人
例 祭 舊曆一月十八日、三月三十日、八月十五日、九月十九日、十一月十七日
爐 主 斗六 陳 鯨
林內 張本省
同 林得安
同 何 井
財 産 祠廟敷地○甲〇八〇五、田一甲九四八五

沿革 〓 本廟の祭神は始め同庄の林姓の者が守護神として奉祀したるが庄内人民も一般に信仰する事となりたるより明治十一年庄民協議の上本廟を建立して奉祀せり當時本廟創立に最も盡力したるは林三貴なる者にして庄内より寄附金四百圓と勞力の寄進を受けたりと

國 姓 爺 廟

所在 斗六街林內

教 別 儒教
 祭 神 國姓爺及其臣下、土地公
 創立 同治元年
 信 徒 三百餘人
 例 祭 舊曆十一月十八、十九兩日
 管理人 林内 許石虎
 財產 祠廟敷地一甲〇一三〇

沿革 本廟の祭神は鄭必昌なる者が本庄は鄭姓多き故國姓爺を祀るべしと南投の國姓爺廟より分香し來り建廟の上奉祀せり然るに明治三十一年出水の爲め廟宇流失せしを以て庄の信者より寄附二百圓を募り之を改築せりと

大 年 宮

所在 斗六街九芎林

教 別 儒教
 祭 神 神農聖帝、土地公、媽祖
 創立 乾隆年間
 信 徒 二百餘人
 例 祭 舊曆一月六日、二月二日、四月廿六日、八月十五日、十一月十五日
 管理人 九芎林一七九 李 寶
 財產 田二甲四六六五、畑〇甲七七五五

沿革 乾隆年間當庄に楊仲希なる者あり能く事理を解し農村の守護神は神農ならざるべからずと自ら卒先して私財を投じ且つ庄内の醴金を集めて本廟を建設せり其後三回に亘りて修繕改築を行ひたりと云ふも其狀況詳かならず只だ其の最後の光緒十七年の時は林克明、林桔昌等發起して土地公の財産三百圓の外に庄内信徒より寄附を募り工費約二千圓を投じて改築したるが大正五六年頃より更に改築の議を凝らしつゝありと

長 和 宮

所在 斗六街石榴班

教 別 儒教
 祭 神 媽祖、順風耳、千里眼、關聖帝、蘇

王爺、太子爺、土地公、神農聖帝
 五十五年
 創立 二百人
 信 徒 舊曆一月九日、一月十五日、二月十九日、三月廿三日、七月廿九日、八月十五日、十一月十五日
 管理人 林内 張 同

沿革 本廟の創立は詳かならず、同治九年五月土地の有志張邊及張西桂の發起にて庄民より寄附を募り改築せるも其費用は幾許を要せしや明かならずと

湖 山 巖

所在 斗六街狡狗

教 別 佛教
 祭 神 觀音菩薩、善才、良女、註生娘々、
 姫丹、媽祖、伽藍爺、十八羅漢、韋
 駄天
 創立 雍正三年
 信 徒 三萬人
 例 祭 舊曆一月一日より十九日迄、六月一日六月十九日、九月一日、九月十九日
 管理人 狡狗 林 粗
 財產 祠廟敷地〇甲一四五五、田二甲〇七五五

沿革 雍正三年林内の林克明なる者觀音堂を建立せんと欲し地相者を招き此處に地を相して建立せり其後乾隆六年には林佛騰の盡力にて道光二十七年には林造吉の斡旋にて又同治十三年には海豐崙の林金波、林合義の兄弟發起にて修繕或は改築せるも其工費は不明なり但し同治十三年の際は寄附金を遠く四方より集めたりと云へば之れ改築なるべしと

帝 爺 廟

所在 斗六街狡狗

教 別 儒教
 祭 神 帝爺、祖師公、孫真人、觀音佛祖
 創立 道光七年
 信 徒 二百十六人

例 祭 舊曆三月三日、八月十五日、九月九日、十一月十五日
 爐 主 咬狗 林 生
 同 同 張 順 代
 同 同 林 法
 財 產 祠廟敷地○甲一七三五、田○甲五六六五

沿革 道光七年三月の創立なりと云ふも縁起不明なり、其後明治三十九年の地震の爲め大破したれば楓樹湖の吳條枝なる者發起して寄附金を募集せるも思はしく集まらず僅かに八十圓を得たるに過ぎざれば従前よりも廟の規模を小さくして別に住民の勞力寄附を仰ぎて修繕を完了せりと

土地公廟

所在 斗六街咬狗

教 別 儒教
 祭 神 福德正神、同媽、神農正神、觀音佛祖、王爺
 創 立 明治二十一年
 信 徒 二百五十三人
 例 祭 舊曆二月二日、八月十五日、十一月不定日
 財 產 祠廟敷地○甲○七七〇

沿革 創立の縁起詳かならざるも明治二十一年同庄の林祖なる者發起して庄民の出役寄附を仰ぎ且別に金百圓を募りて起工同年三月竣工せりと

土地公廟

所在 斗六街菜公

教 別 儒教
 祭 神 福德正神
 創 立 約六十年前
 信 徒 八百五十人
 例 祭 舊曆八月十五日
 爐 主 菜公 卓山和

沿革 約五六十年前の創立なりと云ふも縁起其他詳かならず其後廟宇漸次大破

したるを以て大正二年林德輝なる者發起人となり菜公庄より六十四圓の寄附を仰ぎ同年十一月修繕完工せりと

音觀廟

所在 斗六街烏塗子

教 別 佛教
 祭 神 觀音媽
 創 立 大正元年
 信 徒 七十六人
 例 祭 舊曆二月十九日、六月十九日
 管理 人 烏塗子 張粗皮

沿革 大正元年五月張粗皮なる者臺中州清水巖觀音廟より祭神を奉じ來り庄民と協議の上竹柱の一小廟を建立し爰に奉祀したるが漸次庄民の信仰を得つゝあり

關帝廟

所在 斗六街烏塗子

教 別 儒教
 祭 神 關帝
 創 立 明治三十六年
 信 徒 七十八人
 例 祭 舊曆一月十三日
 爐 主 烏塗子 張明生

沿革 明治三十六年庄民張萬なる者個人にて竹柱建の粗雜なる廟宇を建て自家に奉祀せる關帝像を遷祀したり然るに大正三年の暴風雨に大破せるを以て張萬發起となり信徒より金十圓の寄附を仰ぎ同年末修繕完了せりと

永福宮

所在 斗六街烏塗子

教 別 儒教
 祭 神 謝元帥爺、土地公
 創 立 文化十三年
 信 徒 二百人
 例 祭 舊曆五月四日
 管理 人 烏塗子 楊宗榮

沿革 文化十二年頃庄民中の有志溪州堡新店仔庄仁和宮より分香し粗雑なる廟宇を建て、之を奉祀したるに一時は庄民の信仰厚かりしも其後漸次衰へ殊に廟宇も大正六年の暴風雨に倒壊せしかば同年庄民一同相謀りて之を再興せりと

土地 公廟

所在 斗六街烏塗子

教別 儒教
祭神 土地公
創立 明治二十七年
信徒 二百人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 缺員

沿革 本廟は石造の小宇にして明治二十七年十月庄民相謀りて斗六街黃甲寅なる若に託し土造作りの本廟を建て、奉祀する事とせりと

土地 公廟

所在 斗六街烏塗子

教別 儒教
祭神 土地公、隨駕王爺
創立 不詳
信徒 五十人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 なし

沿革 本廟の創立縁起不明なり其後明治三十六年廟宇大破に付頼國の發起にて竹柱の假廟を建設せりと

玉 相 宮

所在 古坑庄水確

教別 儒教
祭神 玄天上帝、國姓爺、祖師公、太子爺、元帥、五谷王、觀音媽、土地公、土地媽
創立 百數十年前
信徒 百五十人
例祭 舊曆三月三日、十一月吉日

管理人 水確 劉鼎善
財產 祠廟數地○甲○六一五

沿革 創立縁起詳かならず其後光緒十六年溝子埧の水確より寄附金三百五十圓を募集して修繕を加へ明治四十三年又々同所より金二百圓を集めて現在の廟宇に改築せりと

土地 公廟

所在 古坑庄高厝林子頭

教別 儒教
祭神 福德正神
創立 約二百五十年前
信徒 七百人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 高厝林子頭 高 級 年

沿革 本廟は今より二百五六十十年前の創立なりと稱するも詳細不明なり然るに明治三十九年の地震に大破したれば高墩なる者發起して信徒より數圓の醴金を集め且つ勞力の寄附を仰ぎ同年五月修繕を加へたりと

保 安 宮

所在 古坑庄高厝林子頭

教別 儒教
祭神 保生大帝、孫真人、大使公、玄天上帝
創立 二百四十年前
信徒 七百人
例祭 舊曆一月十五日、三月十五日、十一月十五日
管理人 高厝林子頭 高 級 年
財產 山○甲四八〇〇、池○甲二七七〇

沿革 本廟は今より二百四五十十年前の創立なりと云ふも縁起其他不詳、然るに明治三十九年地震の爲め大破したれば同地の高墩なる者發起して林子頭住民より約八十圓の寄附金と勞力の出役を仰ぎ同年六月修繕せりと

廣濟宮

所在 古坑庄溪邊厝

教別 儒教
 祭神 天上聖母、鄭國聖
 創立 約二百年前
 信徒 九百人
 例祭 舊曆三月二十日、十一月十五日
 管理人 溪邊厝 林媽維
 財產 建物敷地○甲○九九〇

沿革 本廟は今より二百年前の創立なりと傳ふるのみにて創立縁起其他不明なり然るに明治三十九年の地震に大破したれば同地陳清山なる者發起して所在信徒より寄附金百五十圓を募集し同年四月修葺せりと

三界公廟

所在 古坑庄新庄

教別 道教
 祭神 三官大帝、神農聖帝、
 創立 乾隆末年
 信徒 八百二十四人
 例祭 舊曆一月十四日、三月十六日、十一月不定日
 爐主 新店 賴茂
 同同 楊忠
 同同 賴樹振
 同同 賴朝騰
 財產 祠廟敷地○甲○四九〇、池○甲二八二〇

沿革 本廟の創立は乾隆末年なりと云ふのみにて縁起其他知る者なし其後同治二年同地の頼行なる者斡旋して修繕を行ひ次で光緒十五年經費二百圓を投じて大修繕を加へたるが其費用は庄内人民の寄附に據れりと

玉天宮

所在 古坑庄棋盤厝

教別 儒教

祭神 帝爺、三界公、媽祖、觀音佛祖、國姓爺、王爺、關帝、灶君

創立 明治十二年
 信徒 四百三十人
 例祭 舊曆一月九日、三月三日、八月十五日、十一月十五日
 爐主 棋盤厝 賴木大
 同同 陳烏番
 同同 陳旺
 財產 祠廟敷地○甲○五八五

沿革 本廟は當庄民頼濺なる者病氣に罹り瀕死の状態に陥りたる時觀音佛祖を念して漸次快方に赴き遂に全治せしかば明治十二年其謝恩の爲め自己の土地を寄進し且つ廟宇を建立して奉祀せり而して其後大正三年に至り廟宇の破損漸次甚だしくなりたれば頼火發の發起にて所在有志より金三百圓を募り所屬財產の賣却代三百圓合せて六百圓を以て現廟宇の如く改築せりと

議天宮

所在 古坑庄棋盤厝

教別 佛教
 祭神 觀音佛祖、帝爺、土地公
 創立 明治三十七年
 信徒 三百人
 例祭 舊曆二月十九日、八月十五日、十一月十五日
 爐主 棋盤厝 賴友來
 同同 賴亨
 同同 林文章
 同同 邱牛
 財產 建物敷地○甲一五六五

沿革 今より約五六十年前新厝仔の中央部に糖廊設立されたるに庄内紛議多く人民之に苦しみ之を内林庄の王爺に伺ひたるに糖廊の位置を他に移せば平穩ならんと神託あり依つて其の如くせるに果して平穩なりければ明治三十七年同地の邱牛發起し廟敷地は頼友清の寄進を受け

其他の經費八十圓は庄民の寄附に依り同年十一月廟宇の建設成れりと

帝 爺 廟

所在 古坑庄棋盤厝

教 別 儒 教
 祭 神 玄天上帝、媽祖、土地公
 創 立 乾隆五十九年
 信 徒 百三十五人
 例 祭 舊曆一月九日、二月十五日、三月三日
 管理人 缺員
 財 產 祠廟敷地○甲○四五〇、田○甲三三七五、畑○甲四六二五

沿革 乾隆五十九年一支那老人木箱に納めたる帝爺の木像を持ち來り此地に廟宇を建て奉祀せば庄内繁昌すべしと告げければ庄民之を買取り廟宇を建立して之を奉祀せり然るに道光二十六年廟宇漸次破損したれば黃英觀なる者發起して金百二十圓を募り修繕を加へ次いで光緒十五年林陳、林連春等發起にて所在有志より金百六十餘圓を集めて之を改築せりと

帝 君 廟

所在 古坑庄棋盤厝

教 別 儒 教
 祭 神 關帝君、觀音佛祖、玄天上帝、媽祖、太子爺、
 創 立 明治三十一年
 信 徒 三百七十人
 例 祭 舊曆二月九日、五月十三日、六月廿四日
 管理人 棋盤厝 林 登 來
 財 產 建物敷地○甲二七〇〇

沿革 當麻園には從來廟宇なかりし爲め何に彼と不便少なからざりしを以て林登來なる者發起して勞力及び金百三十圓を庄民より募集し庄の守護神として明治三十年本廟を建立せりと

玄 天 上 帝 廟

所在 古坑庄大湖底

教 別 儒 教
 祭 神 玄天上帝、康府元帥、趙府元帥
 創 立 七十年前
 信 徒 百八十餘人
 例 祭 舊曆三月三日
 爐 主 大湖底 余 春 章
 財 產 建物敷地○甲○六〇五

沿革 今より約三百年前劉某福州より本祭神を奉持し來り自宅に奉祀したるに其後漸次所在住民の信仰を得たれば今より六七十年前劉順德なる者發起して庄民と協議の上本廟を創立遷祀せり然るに同廟は規模小さく且つ年を経るに従ひ漸次破損せるを以て陳鳳、徐丁福等發起となり明治十一年寄附金九十圓と勞力の寄進を受け現在の如く改築せりと

保 生 大 帝 廟

所在 古坑庄炭脚

教 別 儒 教
 祭 神 保生大帝、觀音佛祖
 創 立 明治三十八年
 信 徒 百二十人
 例 祭 舊曆三月十五日
 管理人 炭脚 鍾 名

沿革 明治三十八年大莆林の薛均堂が自己所有地開墾の爲め多數の農民を招致せしに何れも病氣に罹りて開墾進捗せざるより遂に保生大帝を調製し自宅を廟宇の如く改造して此處に奉祀したる者にて費用は全部薛均堂自費を投せしものなりと

保 生 大 帝 廟

所在 古坑庄炭脚

教 別 儒 教
祭 神 保生大帝

創立 不詳
 信徒 二百人
 例祭 舊曆三月十五日
 管理人 塚脚 鄭長舜
 財産 建物敷地○甲○三〇〇

沿革 創立に關する縁起其他詳かならず其後明治三十九年の地震に倒潰せしを以て當庄民協議の上百五十圓を醸出して改築せりと

王爺廟

所在 古坑庄炭脚

教別 儒教
 祭神 池府王爺、元帥爺、土地公
 創立 明治三十四年
 信徒 七十人
 例祭 舊曆一月十八日
 管理人 炭脚 王文欽
 財産 建物敷地○甲三四〇五

沿革 今より八十年前庄民協議の上祭木像を刻み各戸輪番に奉祀し來りたるが明治三十八年公共書房を建立して其一隅に奉祀したり然るに右書房は祠廟とする目的の下に建設せしものあらざれば祭典其他に當り不便少なからざれば簡旺董水投等發起にて勞力及任意の寄附金百圓を募集し明治四十二年改築竣工せりと

振興宮

所在 古坑庄麻園

教別 儒教
 祭神 玄天上帝、康府王爺、趙府王爺、西大佛祖、西來母王、太子爺、祖師公、權仔王、鄭國姓、天上聖母、土地公
 創立 大正元年
 信徒 三千人
 例祭 舊曆一月九日、三月三日、七月廿九日、八月十五日、十一月十五日
 管理人 麻園 李旺

沿革 乾隆年間大湖庄の吳萬なるもの支那より上帝の分香を持ち來りて奉祀せ

るに一夜神夢に此地を距る數丁の川上に樟の流木あり其の樟樹を以て余の木像を調刻せよと吳萬翌朝之を探すに果して夢の如く一流木あり持ち歸りて村民と協議し木像を刻み奉祀するに靈顯著しきものあり炭頭厝の者協議の上廟を建立せんと欲し敷地を撰擇するも肯ずる者なし依つて地を梅仔坑方面に撰び玉宮を建立し之に奉祀し毎年三月梅仔坑に詣り上帝を迎へ來りて祭祀を行ひしも路遠く不便なり偶ま明治三十九年の地震に玉宮倒壊せるより梅仔坑にては之れが再興を企て當地に寄附を求め來る當庄民之を拒絶せしより遂に紛争を起し警察官の調停に依り樟樹製の神像は梅仔坑に其次は炭頭厝に奉祀する事となりて解決せり依つて炭頭厝麻園、大湖底、苦荬樹にて寄附金三千六百餘圓を募集し大正二年本廟宇を建立せり賴忠厚、吳德性、林清は本廟創立に大に盡力せりと

保生大帝廟

所在 古坑庄麻園

教別 儒教
 祭神 保生大帝
 創立 明治十七年
 信徒 三十人
 例祭 舊曆一月十五日、三月十五日、九月九日、十月十五日
 管理人 麻園 吳和尚
 財産 建物敷地○甲五七一〇、田四甲四九六五

沿革 最初當地吳姓の者が之を奉祀せしが靈顯ありとて一般住民も信仰厚くなり遂に明治十七年積立金にて一廟宇を建立して遷祀せり然るに其後久しく修繕を加へざりしより廟宇漸く荒廢に傾きたれば吳和尚發起となり右財産收入より百四十圓を支出して大正二年之を修繕せりと

嘉興宮

所在 古坑庄古坑

教別 儒教
祭神 池府王爺、太子爺、土地公

創立 不詳

信徒 二千二百人

例祭 舊曆一月十八日、六月十八日、八月吉日

管理人 缺員

財產 建物敷地○甲八一四〇

沿革 道光年間庄民協議の上廟宇を建立し王爺を祀る其後明治二十九年兵燹に罹り半ば焼失したるを以て黃息發起して應急の修繕を加へたるも間もなく破損したれば明治三十七年黃息、陳番、黃城、陳水食等發起にて古坑庄其他の信徒より寄附金七百五十圓を募集し之を改築せりと

土地公廟

所在 古坑庄古坑

教別 儒教

祭神 土地公

創立 不詳

信徒 三十四人

例祭 舊曆八月十日

管理人 古坑

財產 山林二甲三三六〇

黃登枝

沿革 創立の緣起其他不明、明治四十年六月信徒協議の上庵古坑庄土名双廊崙仔より金三十圓を募集し明治四十五年八月改築せり

土地公廟

所在 古坑庄古坑

教別 儒教

祭神 土地公

創立 不詳

信徒 二千二百人
例祭 舊曆八月十五日
管理人 缺員
沿革 本廟の創立緣起其他一切不明なり

有應公廟

所在 古坑庄古坑

教別 儒教

祭神 有應公(無縁者の靈)

創立 不詳

信徒 二千二百人

例祭 不詳

沿革 本廟の創立改修築其他の事情一切不明なり

順安宮

所在 斗南庄斗南

教別 儒教

祭神 媽祖、神農聖帝、伽藍爺、魁星爺

創立 康熙年間

信徒 五百人

例祭 舊曆三月廿三日

爐主 斗南

財產 建物敷地○甲〇〇八四、祠廟敷地○甲三一二六

洪和

沿革 本廟の創立は康熙年間なりと云ふも當時の狀況不明なり、其後明治十三年金六千八百餘圓を投じて大修繕を加へたりと云ふも之亦た詳細不明、次に明治三十八九年の地震及引續く暴風雨の爲大破したれば池萬懷外九名發起となり庄民より六千五百圓の寄附を募り大正元年修繕せりと

德化堂

所在 斗南庄斗南

教別 儒教

祭神 關帝君、關平、周倉、開臺聖王

創立 大正三年

信 徒 五百人
例 祭 舊曆五月十三日、六月廿四日、十二月七日

爐 主 斗南 蘇春風

沿革 本廟は沈國珍の發起にて斗南庄一圓及斗六の一部より金一千三百餘圓を募集し大正三年起工、神體は斗南庄安順宮に奉祀せるを遷して大正四年三月創立完工せるものなりと

王 爺 廟

所在 斗南庄斗南

教 別 儒 教
祭 神 朱府、池府王爺、從神、太子爺
創 立 不詳
信 徒 五百人
例 祭 舊曆四月廿三日、六月十八日、八月十六日

爐 主 斗南 黃石頭
財 產 祠廟敷地○甲○九二○

沿革 創立緣起其他不詳、次いで咸豐元年庄民より寄附を募り金六百餘圓を投じて本廟の大修繕を行へり

龍 虎 堂

所在 斗南庄舊庄

教 別 齋 教
祭 神 釋迦尊、孫多佛、金極佛、關帝、觀音、武德公、玄天上帝、鄭成功
創 立 明治三十年
信 徒 二百人
例 祭 舊曆四月廿六日、九月十九日、十二月七日(外に二年一回大祭)

管理人 舊社 沈國珍
財 產 祠廟敷地○甲一二一五

沿革 明治二十九年臺中曹洞宗臺中寺の某布教師當地に來り法話を爲す庄民佛徳の高さに感じ相謀りて一堂宇を建立す沈信、賴安、沈昌、沈茂、沈國珍等専ら之れに幹旋せり其工費千六百圓を要せりと其後明治三十九年の震災に大破したれ

ば沈國珍の幹旋にて庄民より寄附金九百圓を募り明治四十年大修繕を加へたりと

帝 君 廟

所在 斗南庄五間厝

教 別 儒 教
祭 神 關帝君、周倉關平、五顯帝、玄天上帝
創 立 明治三十六年
信 徒 二百人
例 祭 舊曆五月十三日
爐 主 五間厝 林 爲
財 產 祠廟敷地○甲○四三○

沿革 以前は庄内の平安を祈る爲め毎年他より勸請して祭典を行ひ來りたるが明治三十六年庄内の各甲長等相謀り材料勞力の寄附を庄民に仰ぎて本廟を創立せりと

天 福 堂

所在 斗南庄大東

教 別 儒 教
祭 神 關帝君、關平、周倉、玄天上帝、觀音佛祖
創 立 明治三十五年
信 徒 百五十人
例 祭 舊曆三月二日、五月十三日
爐 主 大東 沈 角

沿革 明治三十五年庄内の平安を祈るべく庄民協議の上金二百圓を醸出し本廟を創立したるが大正元年の暴風雨に拜殿倒壊せしを以て再び庄民有志出捐して之を再興せりと

妙 善 堂

所在 斗南庄大東

教 別 佛 教
祭 神 觀音佛祖、善才、良女、媽祖、土地公
創 立 嘉慶年間
信 徒 三十人
例 祭 舊曆一月十五日
管理人 大東 沈聯雷
財 產 祠廟敷地○甲一七〇〇

沿革 嘉慶年間の創立なりと云ふも縁起其他不明なり、其後光緒四年大修繕を施したりと云ふもこれ亦た不明なり

立天上帝廟

所在 大埤庄大埤

教別	儒教
祭神	立天上帝、太子爺、鄭國姓、祖師公
創立	明治二十六年
信徒	百八十人
例祭	舊曆三月三日
管理人	大埤 張再都
財產	祠廟數地○甲○九五五

沿革 明治四年大埤庄芦竹溪柯象なる者店仔口より神佛を携へ來り自家に奉祀し居たるが靈顯著しとて附近の住民も大に之れを信仰するに至れり然るに明治十二年に至り柯象修業成佛すと稱して死せしが木乃伊となりしかば他の信仰一増加はり明治二十六年張修等相謀り同庄の信徒より金三百五十圓を募り一字を建立し立天上帝及柯象を祀れり然るに明治三十八年の震災に破損したれば信徒の寄附四十圓を集め明治三十九年修復せり

三山國王廟

所在 大埤庄大埤

教別	儒教
祭神	三山國王、指揮爺、韓文公
創立	嘉慶廿四年
信徒	五萬人
例祭	舊曆二月廿四、五、六日、七月十四日
管理人	大埤 劉忠
財產	祠廟數地○甲○一五三

沿革 初め他の地方より當庄に廣東人移住の際分香し來りたるものなるが偶ま惡疫流行の際なりしより之を病者に服せしめ祈禱せしむるに靈顯著しく直ちに全快するより大に信仰を得當地の張元基發起となり附近五十三社より寄附金八千五

百圓を募り嘉慶二十四年本廟を建立せり其後光緒十四年廟宇頽廢せるを以て以前寄附募集の關係信徒より金三千二百圓を募り大修繕を加へたりと

三界公廟

所在 大埤庄大埤

教別	佛教
祭神	三官大帝、關老爺、三山國王、鄭國姓、魏王、五谷王、朱王、天上聖母知王、土地公
創立	同治四年
信徒	二百五十人
例祭	舊曆一月十五日、十月十五日
管理人	大埤 張杏
財產	祠廟數地○甲○一三五、田一甲二八七〇

沿革 同治四年大埤庄に惡疫流行し庄民神佛に祈願して平癒する者多し依つて同庄の張劉の二姓相謀り同庄民より寄附金四百五十圓を募り本廟を創立したるが明治三十九年の地震に破損したれば劉頭發起にて再び同庄より金四百五十圓を募り同三十九年之を修復せり

祖廟

所在 大埤庄大埤

教別	儒教
祭神	劉姓祖先
創立	不詳
信徒	二十人
例祭	舊曆一月十五日、七月十四日、七月廿三日、八月十五日、十二月末日
管理人	缺員
財產	建物數地○甲○二二〇、田六甲四八一五、畑一二甲○三七〇、年收益四百四十三圓

沿革 今より約六十年前當地の劉德興なるもの附近の劉姓と相謀りて本廟を創立せしが明治三十八年の地震に大破せり依つて再び劉姓一族協議の上寄附三十五

圓を醸出し明治三十九年之を改築せりと

祖廟

所在 大埠庄大埠

教別 儒教
 祭神 張姓祖先
 創立 約百年前
 信徒 三十五人
 例祭 舊曆一月七日、七月十四日、八月十四日、九月九日
 管理人 大埠 張和尙
 財産 祠廟敷地〇甲二二〇〇

沿革 今より約百年前當地張姓の者相謀りて祖先を祀るべく本廟を創立せり其後張鵝なる者附近の張姓より寄附を募りて修繕を加へたりと云ふも其費額年代等詳かならずと

祖廟

所在 大埠庄大埠

教別 儒教
 祭神 曾姓の祖先
 創立 百三十年前
 信徒 十八人
 例祭 舊曆七月十五日
 管理人 大埠 曾天賜

沿革 約百三十年前當地の曾姓相謀りて其祖先を祀るべく本廟を創立せり然るに明治三十八年の地震及大正三年の暴風の爲め廟宇大破したれば曾勇なる者發起して附近の曾姓より寄附金三十圓を募り大正三年九月改築せりと

福德爺

所在 大埠庄大埠

教別 儒教
 祭神 福德爺
 創立 不詳
 信徒 六十人
 例祭 舊曆八月十四日
 管理人 大埠 張瑞

財産 祠廟敷地〇甲〇七二〇、養魚池〇甲三四四〇

沿革 本廟の創立縁起其地改修築等一切不明

慶福堂

所在 大埠庄大埠七四

教別 齋教
 祭神 佛祖、其他、觀音、善才、良女を從祀、配祀す
 創立 昭和七年一月八日
 信徒 貳百人
 例祭 舊曆一月九日、二月十九日、四月八日、六月十九日、九月十九日、十月十五日
 管理人 大埠七四 柯氏參

同 同 一一五 張柯氏寶
 同 同 彰化南郭四九六 康清塗
 同 同 斗六大埠七四 黃監
 同 同 劉氏清雲
 財産 建物敷地〇甲四一八五、畑〇甲二八三七、田五甲六三四九

沿革 前記管理人等發起して昭和三年十一月七日起工同四年五月三十日竣工々費四千三百二十五圓を要せりと

保赤堂

所在 大埠庄埔姜崙

教別 儒教
 祭神 關帝君、境王尊神、三山國王、福德正神、開臺尊王、觀音媽
 創立 不詳
 信徒 百人
 例祭 舊曆二月十九日、六月廿四日
 爐主 姜崙 劉守

沿革 毎年他の地方より祭神を勸請し來つて祭典を行ひ居りしも不便なるより庄民協議本廟を創立せりと併し其年代等は不明なり其後大正元年の暴風雨に廟宇大破したれば庄民協議の上金品勞力を持ち寄り大正二年改築せりと

關帝君廟

所在 大埤庄田子林

教別 儒教

祭神 關帝君、觀音、媽祖、石頭公、土地公、石爺

創立 不詳

信徒 百二十人

例祭 舊曆五月十三日、六月廿四日

管理人 田子林 劉科

沿革 創立の緣起其他不詳、其後同治九年八月修繕を加へたるが大正元年の暴風雨に大破したれば陳實文發起となり庄民協議の上醱金して修覆を加へたりと

義烈祠

所在 大埤庄田子林

教別 儒教

祭神 向義公

創立 道光十八年

信徒 百五十人

例祭 舊曆七月十五日、八月二十日

管理人及爐主 大埤 劉排

財產 祠廟數地○甲四七四五、畑○甲四四八〇

沿革 道光十二年の亂に戦死したる義民二十七名の英靈を慰むべく道光十八年劉文秀の發起にて創立せり然るに其後明治三十九年の震災に倒壊したれば劉銀珠劉清標、外數名相謀り工費百餘圓は前記各氏自から醸出し材料は倒壊材料を用ひて明治四十四年再築せりと

關帝廟

所在 大埤庄芦竹港

教別 儒教

祭神 關帝君、大聖爺、灶君、三山國王、觀音媽

創立 明治三十六年

信徒 二十餘人

例祭 舊曆五月十三日、六月廿四日

爐主 芦竹港 蘇謙

沿革 今より百四五十年前張龍なる者支那より本神像を奉じ來りたるが靈顯著しとして附近の住民も漸次信仰するに至りたれば明治六年張羅、張歹九、張見、張東等相謀りて醱金し一小廟宇を新築せり然るに大正元年の暴風雨に廟宇倒潰せるより庄民張古方に遷祀中なり

關帝廟

所在 大埤庄芦竹港

教別 儒教

祭神 關帝君、玄天上帝、太子爺、鄭國姓

創立 明治三十三年

信徒 七十餘人

例祭 舊曆五月十三日、六月廿四日

管理人 芦竹港 許良善

沿革 明治三十三年當庄元柳樹脚の許實、許良善及び許景等發起して他里霧の關帝廟より分香し來りて神像を刻み同部落より醱金百三十圓を集め本廟を建立せり

開山大帝廟

所在 大埤庄舊庄

教別 儒教

祭神 開山大帝、朱王、李王、虎爺

創立 咸豐元年

信徒 五百人

例祭 舊曆三月廿九日

管理人 舊庄 李來彬

財產 祠廟數地○甲○六四五、畑四甲四七七三、雜○甲一三一五、田二甲八四

五〇

沿革 初め廣東人當部落移住の時携へ來り奉祀したるが靈顯ありとして信仰漸次加はり咸豐二年同部落の陳許二姓相謀り一廟を建立し開山大帝の神像を刻みて之を奉祀したるが明治三十八年の震災に大破せしかば李叫發起して同庄内より三百五十圓の寄附金を募り明治四十一年改築

せりと

保生大帝廟

所在 大埤庄舊庄

教 別 儒教
 祭 神 保生大帝
 創立 咸豐三年
 信 徒 二百六十人
 例 祭 舊曆一月十五日、三月十五日
 管理人 缺員

沿革 初め當庄吳姓の者臺南にて眼病に罹り本祭神に祈願服藥せしに靈顯ありたれば庄民之を聞き相謀りて數千圓を醸金し咸豐三年廟宇を建て神像を刻みて奉祀せり明治三十八年より大正元年に至る震災風害に廟宇大破したるも未だ改築の運に至らずと

保生大帝廟

所在 大埤庄舊庄

教 別 儒教
 祭 神 保生大帝、鄭國姓、土地公
 創立 同治七年
 信 徒 百八十人
 例 祭 舊曆三月十五日
 管理人 舊庄 王 粧

沿革 同治六年陳讚なる者發起して同庄民と協議の上廟宇を建立し祭神を奉祀せり之れ同庄人にて病氣に罹り祭神に祈願して全治せしものありし爲めなり其後明治三十八年の震災に廟宇破損したれば羅秋等發起して金百圓を募集し明治四十二年之を改築せり

三界公廟

所在 大埤庄舊庄

教 別 道教
 祭 神 三官大帝、土地公、王爺
 創立 咸豐二年
 信 徒 六十人

例 祭 舊曆一月十五日、三月十九日、八月十五日、十月十五日

管理人 なし
 財產 畑五甲七〇三五、田〇甲九一九〇

沿革 咸豐三年同庄民協議の上林成發起となり寄附金を募り本廟を創立せり其後明治三十八年の地震及大正元年の暴風に大破し未だ改築の運びに至らず廟宇將さに倒れんとし危険の狀態に在りと

立武堂

所在 大埤庄埤頭

教 別 儒教
 祭 神 關帝君、福德爺、同夫人、觀音、保生大帝、上帝爺
 創立 明治三十六年
 信 徒 百人
 例 祭 舊曆五月十三日、六月廿四日
 管理人 なし

沿革 明治三十六年黃自居なる者阿片吸喰者が一度關帝に祈願せば直ちに其惡癖を正し得るの靈顯ありとて庄民の寄附を募り本廟を創立せりと

泰德殿

所在 大埤庄埤頭

教 別 儒教
 祭 神 關帝君、土地公、土地婆、國姓爺、祖師、玄天上帝
 創立 明治三十五年
 信 徒 百人
 例 祭 舊曆二月廿五日、六月廿四日
 主 埤頭 張 語

沿革 阿片吸喰者が關帝に祈願せば其惡癖を矯め得べしと聞き黃德時なる者發起して其同祖館を改修して廟に充て本廟を創立せり其費用約五十圓は庄民各自醸出せりと

宮樹王

所在 荊桐庄樹子脚

教 別 儒教
 祭 神 張公聖君、同家臣、土地公
 創 立 弘化四年
 信 徒 四百人
 例 祭 舊曆七月廿三日
 爐 主 樹子脚 陳群老

沿革 本廟の祭神は當庄の最初の移住民が支那より携へ來りたるものにして當時は移住民中の有志の宅に祀りたるが其後庄民の寄附に依り大廟宇を建立奉祀せり然るに明治三十四年、大正元年兩度の洪水に廟宇流失したれば明治三十五年には庄民の寄附金三百圓を募りて竹柱の廟を再建し大正二年には當庄陳中の寄附二百圓を以て同様再築せりと

廣 興 宮

所在 荊桐庄樹子脚

教 別 儒教
 祭 神 池王爺
 創 立 二百七八十年前
 信 徒 八百人
 例 祭 舊曆六月十八日
 爐 主 樹子脚 黃 屋
 財 產 祠廟數地○甲一二〇〇

沿革 本廟の祭神は庄民の祖先が支那より移住の際奉じ來りて村端れに粗雜なる一小宇を建て奉祀したるが其後再三倒壊したれば庄民漸次廟宇の規模を擴大し遂に土角煉瓦併用の稍や見るべき廟宇となしたるが明治二十九年暴風雨の爲め倒潰せしかば明治三十年現在の位置に土角造りの廟宇を再興せり此費用約百二十圓は庄民の負擔なり超へて大正元年又々暴風雨の爲め倒壊せしより又々庄民の寄附二百四十圓を集め大正二年改築せりと

上 帝 爺 廟

所在 荊桐庄樹子脚

教 別 儒教

祭 神 上帝爺、武良、虎監、土地公、土地婆
 創 立 百八十年前
 信 徒 三百五十人
 例 祭 舊曆三月三日
 管理人 樹子脚 藍水牛

沿革 今より百七八十年前同庄の葉臻外三名の發起にて玄天上帝の神像を刻み權仔坑の玄天上帝廟より分香して之に籠め小宇を建立して奉祀せるが靈顯著しかりければ他庄より信者の參詣する者も漸次多きを加ふるに至りたり尤も此の間再三暴風雨の犯す處となり其都度小修繕を加へたるが大正元年の暴風雨の爲め倒潰せしを以て有志の斡旋にて寄附金四百圓を募り同年末現在の土角瓦葺の廟に改築せりと

洪 福 宮

所在 荊桐庄樹子脚

教 別 儒教
 祭 神 池王爺、媽祖、福德爺
 創 立 百四十年前
 信 徒 五百人
 例 祭 舊曆三月廿三日、六月十八日
 爐 主 樹子脚 李生番

沿革 今より百二十年前當庄の林章なるものが漳洲の近海にて王爺の神像を拾ひ持ち歸り爾後同人宅に奉祀したるが其後他の神像をも求め來りて一小宇を建立して遷祀せり然るに其後廟宇大破せるを以て明治三十五年林讚なる者の發起にて費用百五十圓を募り之を再興したるが明治三十九年の暴風雨に倒潰したれば庄民協議の上金千三百餘圓の寄附を募り現在の如く廟宇を改築せりと

土 地 公 廟

所在 荊桐庄樹子脚

教 別 儒教

祭神 土地公
 創立 不詳
 信徒 八百人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 缺員

沿革 饒平厝部落の開祖饒平なる者其地の中央に土地公廟を建立して庄内の平安を祈りたるも其年代等不詳なり、其後同治九年庄民合議の上現在の位置に廟宇を移せり斯くて星霜を経るまゝに漸く荒廢したれば明治三十七年更に改築せりと云ふも其狀況詳かならず

土地公廟

所在 荊桐庄樹子脚

教別 儒教
 祭神 土地公
 創立 百餘年前
 信徒 百二十人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 缺員

沿革 本廟は今より百年前の創立なりと云ふも詳細不明なり其後明治十一年竹柱茅葺の土角造りに改築し爾來再三小修繕を加へたるも餘りに煩はしきより明治四十三年林塗、林遠志發起にて庄民有志の寄附五十圓を募り現在の石造瓦葺廟宇に改築せりと

王爺回祀

所在 荊桐庄樹仔脚

教別 儒教
 祭神 池王爺
 創立 嘉慶三年
 例祭 舊曆六月十八日
 信徒 百二十人
 爐主 樹子脚 李阿清

沿革 嘉慶三年部落民張池なる者大坂田堡大崙脚庄より分香し來り爾來部落民爐主を定めて回祀し居れり

德天宮

所在 荊桐庄麻園

教別 儒教
 祭神 國姓爺、李太子爺、甘爺、萬爺、栗母王
 創立 文化二年
 信徒 七百人
 例祭 舊曆二月十九日、九月九日
 管理人 麻園 洪益
 財產 祠廟數地○甲○二○

沿革 文化二年の創立にして始めは土角造なりければ屢々小修繕に元費を費したるが明治四十三年震災風水害等の爲め廟宇崩潰せしかば庄民協議の上寄附金五百五十餘圓を募集し翌年十一月現在の煉瓦壁瓦葺の廟宇に改築せりと

回祀

所在 荊桐庄麻園

教別 儒教
 祭神 劉先公
 創立 七十數年前
 信徒 六百五十人
 例祭 舊曆六月十四日
 爐主 麻園 林銅

沿革 今より七十二年前臺中廳東螺西堡土角庄より木像を持ち來りし者あり部落民の信仰する所となり爾來作物豐饒なりければ之れに劉先公と命名し爐主を定めて回祀し居れり

土地公廟

所在 荊桐庄麻園

教別 儒教
 祭神 土地公
 創立 明治元年
 信徒 六百五十人
 例祭 舊曆八月十五日
 管理人 缺員

沿革 本廟は明治元年十月創立の煉瓦

造り瓦葺の一小廟宇にして其創立費用は總て庄民の喜捨に依れりと

福德正神

所在 荊桐庄麻園

教別 儒教
祭神 土地公
創立 不詳
信徒 八十二人
例祭 不詳
管理人 缺員

沿革 本廟は元當庄内の榕樹の下に在りしが榕樹の發育に従ひ遂に崩壊するに至りたれば庄民相謀りて寄附金品を持ち寄り大正二年現在の位置に改築せり廟は煉瓦造瓦葺の小廟宇なりと

仁和宮

所在 荊桐庄新店子

教別 儒教
祭神 元帥爺、太子爺、同將、兵、土地公
創立 百五十年前
信徒 四百五十人
例祭 舊曆五月四日
管理人 新店子 張朝元

沿革 本庄張朝居なる者の祖先が百四五十年前支那より移住の際奉じ來り庄民と共にして廟宇を建立し之を奉祀せり、其後嘉慶二年火災に罹りたるが同三年改築せり其費用百五圓は庄民一同より寄附せり然るに大正三年に至り廟宇漸次荒廢せしかば又々庄民協議の上寄附金三百五十圓を醸出して現在の如く大修繕を加へたりと

回祀

所在 荊桐庄新店子

教別 儒教及佛教

祭神 蕭王爺、觀音媽、土地公
創立 慶應三年
信徒 三百人
例祭 舊曆五月十八日
爐主 新庄子 張用
沿革 創立の時嘉義西螺堡甘厝庄の王爺廟より分香し來り粗末なる一字を建立し祭祀し居たるが明治三十一年の暴風雨に倒壊したるを以て爐主宅に安置し例祭日に庄内を回祀し居れり



は大、二、四の三班五十餘人の會員あるのみ維持は所屬財産田一甲九〇一五、年收三十圓及基本金七十圓年利子十四圓あり祭典費維持費に充て居ると

土地公會 大埔庄大埔三八二

- 祭神 福德爺
- 會員 八人
- 創立 乾隆三十年
- 例祭 舊曆八月十五日
- 管理人 大埔庄大埔三八二 陳賀

沿革及經理 農作物の豐穰を祈る爲め庄民中の有志協議して本會を創立し田地一甲餘を買求め其收益にて祭祀を行ふ事としたるが明治三十年頃までは小作希望者多く年三十圓内外の收益ありしも現今は小作料下落して四圓内外となり祭費に不足を生ずるを以て其不足額は會員より醸出して居ると

斗六郡宗教團體

斗六街

六房媽會 斗六街大北勢

- 祭神 天上聖四將軍
- 會員 約二百人(斗六、西保、土庫、打猫の林姓)
- 創立 約二百年前
- 例祭
- 爐主 斗六街大北勢 林詩禮

沿革及經理 支那徽州より渡來せる林姓六人の兄弟が一は大勢庄、次は海豐嶺庄、惠來厝庄、新庄、五間厝庄、土庫庄の六箇所に分住し輪番に媽祖を奉祀する事として今日に至るものにして各地其祭費の醸出を異にし大北勢にては爐主一人にて之を負擔し所屬財産として基本金三百十圓を有するも其造成の次第不明

師明公會 斗六街保長廊

- 祭神 師明公
- 會員 十人
- 創立 約二百年前
- 例祭 舊曆一月六日
- 爐主 斗六街保長廊 張根

沿革及經理 創立は約二百年前なるも管理人が所屬財産を消費し一時廢會となり居りしを明治四十二年張

友外九名共同して民有地を購耕し其利益を資金とし毎年一回祭祀を行ふ事として再興せり現所屬財産貸金五十圓年利息十圓ありと

太子爺會 斗六街榮公

- 祭神 太子爺
- 會員 六人
- 創立 約百二十餘年前
- 例祭 舊曆九月九日
- 爐主 斗六街榮公 石坤水

沿革及經理 榮公の李姓の祖先が支那より祭神を奉持し來り自家に奉祀せるに同家は常に災厄を免かれ家内安全なるより附近の者も之を信仰し遂に本會を創立するに至りたるが創立當時會員各自六斗を醸出し之を金に代へ他に貸付けて利殖を謀り之れにて祭費及會の維持費に充て居ると現在貸付金二十六圓年利息六圓ありと

明神會 斗六街榮公

- 祭神 太子爺、帝爺、國姓、媽祖
- 會員 八百五十人
- 創立 百二十餘年前
- 例祭 一定せず
- 爐主 斗六街榮公卓山和、同許火列、同劉印
- 管理人 同 林得輝

沿革及經理 庄民の享福安全を祈る爲め創立し祭費維持費は一般の寄附に依れり財産としては建物敷地〇甲二一〇〇あるのみと

大道公會 古坑庄高厝林子頭

- 祭神 保生大帝
- 會員 十六人
- 創立 明治四十二年
- 例祭 舊曆三月十五日
- 爐主 古坑庄高厝林子頭 鄒笨

沿革及經理 會員各自の生命財産の保護を祈らん爲め約百年前に創立されたるも明治四十二年其所屬財産田約一甲歩畑約九分を賣却して解體せり然るに會員高旺は前記田畑の賣却價格低廉なりと不平を唱へ買受人高甘堂は金十圓、高漢脚は金二圓を出す事となりたれば其他の會員も各一圓宛を醸出し之を利殖して祭費を支辨する事として會を再興せり現在貸付金十圓利息年六圓ありと

神名會 古坑庄高厝林子頭

祭神 帝爺
 會員 四百人
 創立 約百數十年前
 例祭 不定
 爐主 古坑庄高厝林子頭 潘茂
 沿革及經理 高厝林子頭の内荷苞厝民の享福安全を祈る爲め創立し之れが祭事費維持費は庄氏一般にて負擔し來れりと所屬財産なし

福德爺會

祭神 福德正神
 會員 十人
 創立 不明(例祭不明)
 爐主 古坑庄垵頭厝 郭大川
 沿革及經理 創立及再興の事情を知るものなし只だ古老に會員の好運を祈る爲め創立せりと云ふ會の維持は所屬財産の收益を以て之に充てゝ居るが其財産は田一甲三〇八〇あり年小作料不明

天上聖母會

祭神 天上聖母
 會員 十六人
 創立 約二百餘年前
 祭例 舊曆三月廿三日
 管理人 古坑庄庵古坑 高傳治
 沿革及經理 沿革詳かならざるも二百餘年前媽祖信仰の同志が親睦を厚ふる爲め本會を創立したるものゝ如し祭事及維持は會の所屬財産如三甲六二四二其小作料年三十二圓を以て支辨し居れりと

土地公會

祭神 福德爺
 會員 二十四人
 創立 約百二十年前
 祭例 舊曆八月十五日
 管理人 古坑庄庵古坑 陳取
 沿革及經理 正確なる記録なきを以て創立の沿革等不明なるも祭神は諸病及強窃盜の難を救ふに靈顯ありとて之を祀り且つ親睦を圖る爲め本會を創立したるものゝ如し會員は當初銀一元宛を醸出し田畑を購入し其收益を以て祭事費維持費に充てゝ來たか昭和二年其所屬財産の大部を處分したれば殘財産は畑〇甲八二四五建物敷地〇甲四七〇五を剩すのみとなれりと

關聖帝君會

斗南庄斗南

祭神 關聖帝君
 會員 二十四人
 創立 明治三十四年頃
 例祭 舊曆十二月七日
 爐主 斗南庄斗南 沈萬吉
 沿革及經理 關聖帝君に祈願せば阿片吸喰を斷禁し得るとの信念より會員一同協議の上基本財産として金二圓宛を醸出して本會を創立し該基本金を貸付利殖して一面祭事費維持費を支辨すると共に基金の増殖を圖り居れり現在四十八圓、此年利息十二圓ありと

觀音媽會

祭神 觀音佛祖
 會員 二十人
 創立 不詳
 例祭 舊曆二月十九日
 爐主 斗南庄斗南 黃糖
 沿革及經理 創立の年代不詳なるも本祭神信仰者が祭神降誕日の祭典を盛大にし併せて各自の冥福を祈らんが爲め創立したるものゝ如し創立の當初會員は各一圓宛を醸出して之を貸付け祭事費維持費を支辨し殘額は更に貸付けて遂次利殖を圖り現在二十圓年利息四圓ありと

金王會

祭神 金府王爺
 會員 三十六人
 創立 不詳
 例祭 舊曆九月廿六日
 爐主 斗南庄斗南 李錦選
 沿革及經理 創立の沿革詳かならず只だ南觀崎廟の祭典に香爐を擔ぐものなきより本會を設け會員にて之を擔ぐ事としたる者にて會員は當初各一圓宛を醸出し建物敷地〇甲〇二五五を購入し其收益に依り祭費及維持費を支辨して居ると

六房天上聖母會

祭神 天上聖母
 會員 十八人(同地林姓の者)
 創立 不詳
 例祭 舊曆三月廿三日
 爐主 斗南庄斗南 林科
 沿革及經理 緣起は斗六の六房媽會と同様にて五年毎に一回天上聖母を迎へ祭禮を行ふ爲め創立したるものにして會員は當初三年間各年二圓宛を醸出して基本

余とし畑〇甲三九三〇を購入し其收益を以て祭事費維持費に充當し來れり

媽祖會

大埠庄大埠一九五

祭神 媽祖

會員 十一人

創立 同治五年

例祭 舊曆三月廿三日

爐主 大埠庄大埠一九五 劉作

沿革及經理 本會創立の年他庄に惡疫流行せるを以て除疫享福を祈願する爲め同庄の呂美、劉連和等發起して新巷媽祖を分香し來り自家に奉祀して本會を創立せり會の維持費祭事費は現金五十圓を貸付け年十圓の利息を收め居るを以て其中より支辨しつゝあるも此の基本金を如何にして造成せしやは明かならず

虎尾郡宗教團體

西螺庄

振文神明會

西螺街西螺六五八

祭神 關帝君

會員 三十八人(同街名望家)

創立 明治四十二年

例祭 舊曆二月三日、四月十四日、九月十五日

管理人 西螺街西螺六五八 廖懷臣

沿革及經理 同地の名望家廖懷臣が發起して會員の親睦を圖り且つ學問の向上を圖るべく本會を創立したる者にて創立當初會員の贖金其他にて二百四十圓の基金を得毎年四十八圓の利息を收め之を以て會の維持及祭典費宴會費等に充てゝ居ると

如心社

西螺街西螺六九四

祭神 玉皇上帝

會員 二十人(同地商人)

創立 光緒十年

例祭 舊曆一月八、九兩日

管理人 西螺街西螺六九四 劉君遜

沿革及經理 西螺街及附近の商人が商賣の繁榮と家内の安全を祈る爲め各自五圓宛を出し之を基本金として創立し其後數年間之を貸付け利殖を圖り祭事費維持費に充當せしが明治二十年頃現金を所有するは危險且

つ不利益なりとの見解にて各自更に二圓宛を出金し基本金と併せて田一甲〇三一〇を買入れ其收益約九十圓を會の諸費に充てゝ居ると

沈大使公神明會

西螺街茄菜二三七

祭神 沈大使公

會員 三十三人(同地歐、陳兩姓の農民)

創立 約百八十年前

例祭 舊曆七月廿五日

管理人 西螺街茄菜二三七 歐力

沿革及經理 今より百八、九十年前沈、歐、陳三姓の祖先始めて支那より同地に移住したるに歐、陳の兩姓は子孫繁榮したるも沈のみは不幸病歿したれば殘る兩姓にて沈を祀る爲め本會を創立し其贖金にて田一甲三〇二五を買入れ其收益年約二十五圓を會の祭事費維持費に充て今日に至ると

福德爺會

西螺街三塊厝一〇六

祭神 土地公、同夫人

會員 百人(三塊厝の農民)

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆八月十五日

管理人 西螺街三塊厝一〇六 林國美

沿革及經理 本會は約百十餘年前同地の有志協議の上農作の豐稔と家内の安穩を祈らん爲め創立したるものにして所屬財産として原野〇甲二九四〇を有するも收益なきを以て其維持は全部會員の寄附に依れりと

聖母會

西螺街三塊厝二五八

祭神 天上聖母

會員 四人

創立 約百十餘年前

例祭 舊曆三月廿三日

管理人 西螺街三塊厝二五八 林國家

沿革及經理 會員各自の無事息災と豐作を祈らん爲め創立し會員協議の上平等出金して基本財産とし畑〇甲七二〇年收益十七圓を買入れ其收益を祭事費維持費に充て今日に至ると

聖母會

西螺街三塊厝四三七

祭神 天上聖母

會員 二人

創立 八、九十年前

例祭 舊曆三月廿三日
管理人 西螺街三塊厝四三七 林東

沿革及經理 今より八、九十年前林東、林木定